◎主な研究成果

◆りんごの結実安定化に向けて

【目的】人工受粉用花粉として適切な品種を探索する。

【結果】「はるか」、「シナノゴールド」など５品種の花粉が低温発芽性を有し、また、花粉量も多いことを明らかにした。

【今後】指導参考技術として生産者・指導者に普及する。

10℃条件下での花粉の発芽状況（シナノゴールド）

人工授粉

◆りんご新品種の開発

【目的】優良な新品種を開発する。

【結果】早生新品種「紅はつみ」、良食味の極早生種「あおり16（恋空®）」、果肉が褐変しない「あおり27（千雪®）」、貯蔵性に優れた「あおり15（星の金貨®）」や「あおり21（春明21®）」などの品種を育成した。

【今後】良品生産、流通に向けた技術支援を行う。

紅はつみ

あおり16（恋空®）

あおり27（千雪®）

あおり15（星の金貨®）

あおり21（春明21®）

あおり24（はつ恋ぐりん®※）
※「はつ恋ぐりんの会」の会員のみが生産・販売可能です。

◆環境にやさしいりんご病害虫防除技術の開発

【目的】黒星病等の被害落葉を効率的に収集する技術を開発する。

【結果】雪解け後の地面に張り付いた黒星病の被害落葉を、手作業の約30倍の作業能率で収集する落葉収集機を開発した。

【今後】指導参考技術として生産者・指導者に提示し、生産現場に普及する。

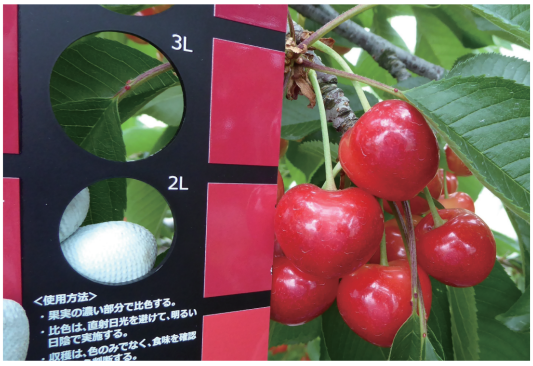
落葉収集による被害葉の収集

◆おうとう（さくらんぼ）「ジュノハート」高品質安定生産技術の開発

【目的】りんご研究所で育成した「ジュノハート」の高品質安定生産技術を開発する。

【結果】摘果の目安、専用カラーチャートによる適期収穫など、「ジュノハート」の生産技術を明らかにし、栽培マニュアルを作成した。

【今後】結実確保や着色向上など、高品質安定生産のための新たな技術を開発し、生産者・指導者に普及する。



カラーチャートによる収穫適期の判別